

イエスはまなり



日本クリスチャン・アシュラム連盟

# 日本アシュラム

アシュラムとはスタンレー・ジョーンズ師がインドの退修方式を取り入れて創設されたキリスト教の新しい祈禱運動である。

開心・静聴・充滿・献身・奉仕 176号

## 「主に自らを委ねよ」

詩編 37 章 4 節

横山 義孝



スタンレーアシュラムの神髄は魂のキリストへの全き明け渡しにあります。彼は1907年23歳でインドに宣教師として渡り、封建的カースト制と貧富の差極めて激しい社会の中で精神的、経済的に困窮と圧迫に閉じ込められた民衆に福音による魂の解放を与えようと、血気の思いに促されて、宣教活動に全力投球をもって臨んだのですが。最初の10年にならない31歳の時彼は、スラム社会に象徴される、複雑な心理状態にあるインド民衆の魂のケアに疲れて困窮疲弊してしまい、肉体と精神に異常をきたし、心身が破壊された状態になって宣教活動不能の状態に落ち入り、一年間休暇をとって、米国に帰り静養の期間を取らざるを得なくなったのです。一年後再びインドの宣教の現場に復帰したのですが、心身の破壊された状態が依然として続いていることを発見し、ヒマラヤ山麓のサトタルにおいて回復を待たねばならない有様でした。このままではインド伝道を断念して、米国に帰り農場経営でもしなければならぬ状況であり、進退について覚悟を迫られる彼の最暗黒の状態でした。

その時神による奇跡の回復の機会がおとずれたのです。スタンレーがラクナウの教会で祈っていた時、あるみ声がかれに囁いたのでした。「私があなたに託したこの仕事に用意ができていますか」と。彼こたえて「主よわたしはもうおしまいです。精も痕もつきはてしました」。するとその御声は「もし翻ってその仕事を私に帰するなら、わたしがそれを処理するであろう」と。かれは直ちに答えて「主よ私はいま直ちににお約束します。全てをあなたにお委ねします」と。

すると「ある大いなる平和がわたしの魂に入り込み、全身に行きわたった。

わたしはしめたと感じた。・いのち-満ち盈てる命がわたしを捉えたのだ・それ以来わたしは不審に思われるほど聊かの疲労の痕跡もなく・「わたしは自分が命と平安と休息と一すなわちキリストご自身によって所有されたことを感じた」E・スタンレージョーンズを89歳の生涯まで壮健と力に満ちてインド伝道に邁進せしめたのは、主なる神ご自身であったのです。ここに「キリストへの明け渡しと服従」の秘儀があります。「だから、神の力強い御手の下で自分を低くしなさい。・思い煩いは、何もかも神にお任せしなさい。神があなた方のことを心に掛けていて下さるからです」(Iペトロ5:7)。ハレルヤ。

(東京新生教会協力牧師)

## 霊 想



「聖書との出会いと

人生の新しい出発」

日本バプテスト連盟

荏田キリスト教会

牧師 鍋倉 勲

通うようになりました。

バプテストマ決心・戦前、戦中キリスト教排斥運動による拘置所収監等の迫害を受け、戦後も一貫して伝道牧会に徹して生き抜いた吉間磯吉牧師の説教に深い感動を覚えながら礼拝に出席し、信仰指導を半年受けて、「イエスは主なり」と告白し、バプテストマを受けて恵みに与かり新しい人生をスタートしました。

召命と献身・大学での学びを終え、郷里の母校の小学校教師として赴任しましたが、最初の夏休みに霧島林田温泉キャンプ場で開催された宣教師研修会での日本語教師の補助として招きを受けて参加しました。その期間中、特別聖書講演を何回も聞く中で「われに従いきたれ、さば、汝らを人を漁る者となさん = Follow me, and I will make you fisher of men」との主イエスの言葉が迫り、苦悩の中にも主の召しを示されて献身への道を歩み始めました。

神学校から牧会への道・献身して日本ソールクリニック聖書学院を経て西南学院大学神学部に入学し、三年間の学びを終えました。卒業と同時に東京の大井バプテスト教会副牧師二年、品川バプテスト教会での伝道・牧会時代の三年間、東京神学大学で特別研究生として四年間、高崎教教授（後に学長）にキリ

スト教教育と教育思想史を学びました。一九六五年より五年間米南国南部バプテスト神学大学及び大学院へ留学（バプ連盟推薦）する機会を得ました。この五年間の留學生生活中は戦争と平和について考え、学ぶことが多々あり豊かな経験をしました。特にベトナム戦時下にM・ルーサー・キング牧師のスピーチを直接聞いた時の挑戦と励まし、メンフィスのモーテルのベランダで彼が凶弾に倒れた時の残酷な実況シーンが繰り返してテレビ報道されたこと、キング牧師の実弟、ウイリアム・キング牧師が牧会していた教会（KY州ルイビル市）に爆弾が撃ち込まれた翌日礼拝に出席し、彼がアトラクタ教会に赴任する最後のメッセージを聞き、礼拝後牧師室に招かれて貴重な交わりの機会を得た経験など、忘れがたく私の心底に深く刻まれています。千九百七十年帰国、招かれて

日本バプ連盟鳥飼バプテスト教会（福岡）の伝道・牧会生活道二十三年務めた後、八月に退職し、同年九月より半年間、母校の南部バプテスト神学校へ客員研究員として再度米国留学しました。千九百四四年三月帰国、四月より西南学院大学開学と同時にキリスト教教授・宗教主事に就任し大学教育に専念する素晴らしい機会を与えられたことはただただ主のご恩寵で幸な経験だったと今

でも深く感謝しています。鳥飼教会時代から約三十年間牧会の傍ら、西南学院大学神学部、九州バプテスト神学校の実践神学部門で共に研究・授業の参加する機会が備えられ、私の教育面での最後の働きが西南学院大学での奉仕が満七五歳まで許されたことは小さきき小ききままに主に導かれてきた人生における大いなる喜びでありました。

今日あるは主の恵みと受け止め、今後もお主の許しある限り主の召した応える者として教会内外での働き、宣教と教育、近辺の地域社会に仕える者としての恵み続けたいと願っています。最後にアシュラム運動への参与を祈るものです。教育教会活動を主軸として教育と療育、ホスピス運動や、いのちの電話などの分野で世界平和と人類の幸福、福祉のために微力を尽くして参りたいと願っています。

私たちキリスト者の生活は日常を神と共に生きようとしています。主イエスはご自身を完全に捧げて完全な救いの道を開いて下さいました。そこに聖書は「神は愛なり」と宣言します。愛とは愛の主イエスもモデルとして学ぶ以外に道はありません。人生の加齢とともにたとえ人は衰えても、クリスチャンは使命に生き抜きます。キリスト教道、比類なき神の偉大なる御愛に支えられて生きる道

敗戦という祖国の呻きの中にも、私は幸い、地方の国立大学に進学することになりました。大学で「英文文学としての聖書」という特別講義を受講しました。担当のH教授は「諸君が聖書を本気で読みたければ教会へ行きたまえ」と勧めました。当時、大学では全学連をポイコットして学生大会を開くこともしばしばでした。日教組の指導部は極左で握られていた感がしました。学生大会で戦時中の軍国主義、帝国主義非難、批判する激しい語調は新生入生にとってはおもてなしかつていました。それだけに学生たちは自分の生きる意味、進路を真剣に考える機会ともなりました。私は先述のH教授のことを思いだして沖繩出身の伊波君と日基教団宮崎清水町教会に

を教えられたのがアシラム聖会でした。キリスト者の愛の実践の根源を成すアシラム道を地上の生涯を閉じる時まで一足一歩歩み続ける者でありたいと願ってやみません。

### 証 「第45回城北アシラムの

恵み」

立 新宿西教会 杉本 和生

2014年2月11日、新宿西教会で城北アシラムが開催された。池の上教会、更生教会、天門教会、新宿西教会を中心に多くの参加教会が与えられた。会場教会になる事は大きな恵みがあります。普段なかなか他の集會に出席出来ない方々も、自分の教会で開催されることにより、出席しようとする意思のハードルは低くなるためです。家庭を持つ主婦においては特にそうした傾向があります。また、今回の集會に当教会の求道者の方々も始めて参加させて頂きました。他の教会の方々とのお交わりを通して、また「み言葉を聴く」恵みを知ったようです。今回の城北アシラムは全体で63名の出席者が与えられました。10時から飯島延浩兄により城北アシラムに関する「オリエンテーション」と「開心の時」が持たれました。自分のニードを皆さんの前で話すことにより、多くの祈りに支え

られ集會全体が始まっていきます。

「祈りの細胞」において、全体では語らないプライベートな祈りの課題も上げつつ人のニードを聞くことにより自分のニードを見直すことが出来ます。そして、隣の人がニードに対する執り成しの祈りをします。隣人のために祈ること、また祈って頂ける恵みは本当に感謝です。

「静聴の時」は天門教会の木村かたる牧師によりローマ8章18、39節が開かれました。聖霊の執り成しの中で(26節)、主は万事を益として下さる(28節)。神が御子のかたちにならうとして定めてくださっていることを(29節)を深く示されました。

「福音の時」は、更生教会の山口紀子師が担当し「生まれてから今日まで私を養われた神」創世記48章15節からヨセフの生涯を通して働かれる神の摂理が語られました。ローマの8章28節のみ言葉を聴くことにより、苦しい過去の記録も神の導きの中で、神は万事を益として下さるお方であると確信させられました。これからの自らの人生における様々な試練があっても、イエスの御手の中にある思いを与えられ、深い希望と平安を与えられました。

2回目の「祈りの細胞」で、恵み

の分かち合いをしました。

「充滿の時」は、横浜岡村教会の安藤脩師が担当してくださいました。全員が輪になり、この日に受けた恵みの分かち合いをいたしました。一人一人の恵みの分かち合いをする中で、確かに主はこの集會に共におられ豊かな恵みを与えてくださったことを感じました。

私は祈っていた方々の証しを聞きながら何度も涙を拭きました。「私たちの救いの主イエスは生きておられるのです。」

「イエスは、主なり。」皆様も、ぜひこの城北アシラムの恵みを体験していただきたいです。来年は2月11日、池の上教会で行いますのでぜひご参加ください。

### 第32回岡村アシラムの報告

横浜岡村教会 安藤 脩

第32回岡村アシラムは、有馬歳弘牧師を助言者として迎えて、昨年の7月13日(土)と14日(日)で行われました。有馬師の福音の時間が創世記17章15、21節から「私を支えているもの」でしたので、事前の連鎖祈禱も創世記12章、18章までを読み、1週間の備えの時をもちました。32回岡村アシラムの特徴は、2012年の第50回関東アシラムの恵みを受け継いだということでは



よう。この年の関東アシラムは、50周年を記念して「関東アシラム50年」のDVDと関東アシラム50年の歩みのパネルを作成しました。そのDVDは参加者にプレゼントされ、パネルも貸し出しをするということでした。それで、今回の岡村アシラムはこのパネルを借り受けて教会のホールに展示し、皆に見て頂きました。また、DVDは福音の時の後に皆で鑑賞しました。このことを通して、アシラムの歴史を知っただけでなく、懐かしさや親しみを感しました。今回のファミリーアワーでは、この年のキリスト教関係話題作の「聖書を読んだサムライた

ち」のDVD鑑賞をしました。明治維新に活躍した6人の侍たちが浮き彫りにされていました。そして聖書の持っている力のすごさを再認識しました。このことがきっかけで、今年開催する当教会の第16回春のランチョンのゲストは、守部喜雅氏（新宿西教会員）となりました。これも恵みの継続です。それともう一つ、安藤華舟氏（牧師夫人）が、フランスで開催されたジャパン・エキスポ（絵画・書道・武道・茶道・折り紙などの伝統文化と漫画・アニメ・ゲーム・音楽などの大衆文化）を含む日本の文化をテーマとして2000年からフランス・パリ郊外で開催されている、総合的な日本文化の博覧会）に、墨彩画を紹介するため参加した状況を話し、その恵みを分かち合うことができました。このような時宜にあった話題と、教員・教会の問題と対策を話し合ったりするのが、岡村アシラムの特徴です。福音の時は、創世記17章15（21節）から有馬師は説かれた。しかし内容はアブラハムの生涯全体に及んだ。神の導きとみ言葉に従って旅立ったアブラムだったが、エジプトでもカナンにおいても信仰に立ちきれない時もあった。そのような時、主は自ら臨在を示された。犠牲の捧げ物の間を主の臨在が通ること、アブラムに契約の確信を与えられ

た。神の約束を人間的に解決しようとして失敗した。もはや年齢的に跡継ぎを得ることは不可能とアブラハムも妻サラ思え、主の言われることを信じきれないで笑う失敗もあった。それでも、主ご自身が約束を守り、彼らの信仰を支えてくださった。私たちの信仰のハンドルも主が握っておられる。主に委ねさえすれば、今のままで主の栄光を表わす者になれると励ましてくださった。

### 第4回仙台アシラムの報告

島 隆三

仙台青葉荘教会では1910年から仙台アシラムを開催してきました。以前には東北アシラムが開かれ、教会員の何人かはそれに参加していたと聞きましたが、それも遠い昔となり、しばらく仙台のアシラムは途切れていました。そこで、牧師をはじめ教会の有志数名で、福島県南相馬市の原町聖書教会（石黒実牧師）で開かれているアシラムに参加してアシラムを体験してみようということになり、そこで参加者は恵まれましたので、仙台でも開くことを決定しました。第1回から3回までは、助言者に村瀬俊夫師にお出でいただき、アシラムとは何か、また、仙台アシラムの土台を築いていただきました。



そして1913年秋の第4回は、アシラムセンター主管牧師の榎本恵師を助言者にお招きし、「キリストの平和」の主題のもとにアシラムを行いました。出席者はほとんど仙台青葉荘教会の兄弟たちでしたが、特筆すべきは日本アシラム連盟理事長の横山義孝師が参加され、また、茅ヶ崎恵泉教会の柏明史師も応援参加をしてくださいました。期せずして、日本アシラムと榎本アシラムの交わりが、このアシラムにおいて実現した思いがいたしました。来年に迫った日本アシラム60周年には、クリスチャンアシラムを実践しているすべてのア

シラムの友が一つになって60周年を祝うことができればと願わされております。

仙台アシラムは、まだまだ経験が浅く、今後、できれば他のアシラムにも参加して学ばせていただきたいと願っております。仙台アシラムのためにもお祈りください。

### 地区アシラム予告

●第52回関東アシラム

とき 14年9月15(月)〜17(水)

ところ 山崎製パン箱根山荘

助言者 有馬歳弘師（日本基督教団青梅教会牧師）

●第6回函館栄光キリスト教会

アシラム

とき 14年10月12(日)〜13(月)

助言者 横山義孝（東京新生教会協力牧師）

●第49回九州アシラム

とき 14年9月21(日)〜22(月)

ところ 福岡黙想の家

助言者 鍋倉勲師

〒1-81-0011 三鷹市井口3-15-6  
池の上キリスト教会内  
日本クリスチャン・アシラム連盟  
振替口座 東京000100011455八